

# ネギハモグリバエ バイオタイプBの防除

農林センター

問い合わせ先:農林センター環境部 0771-22-6494

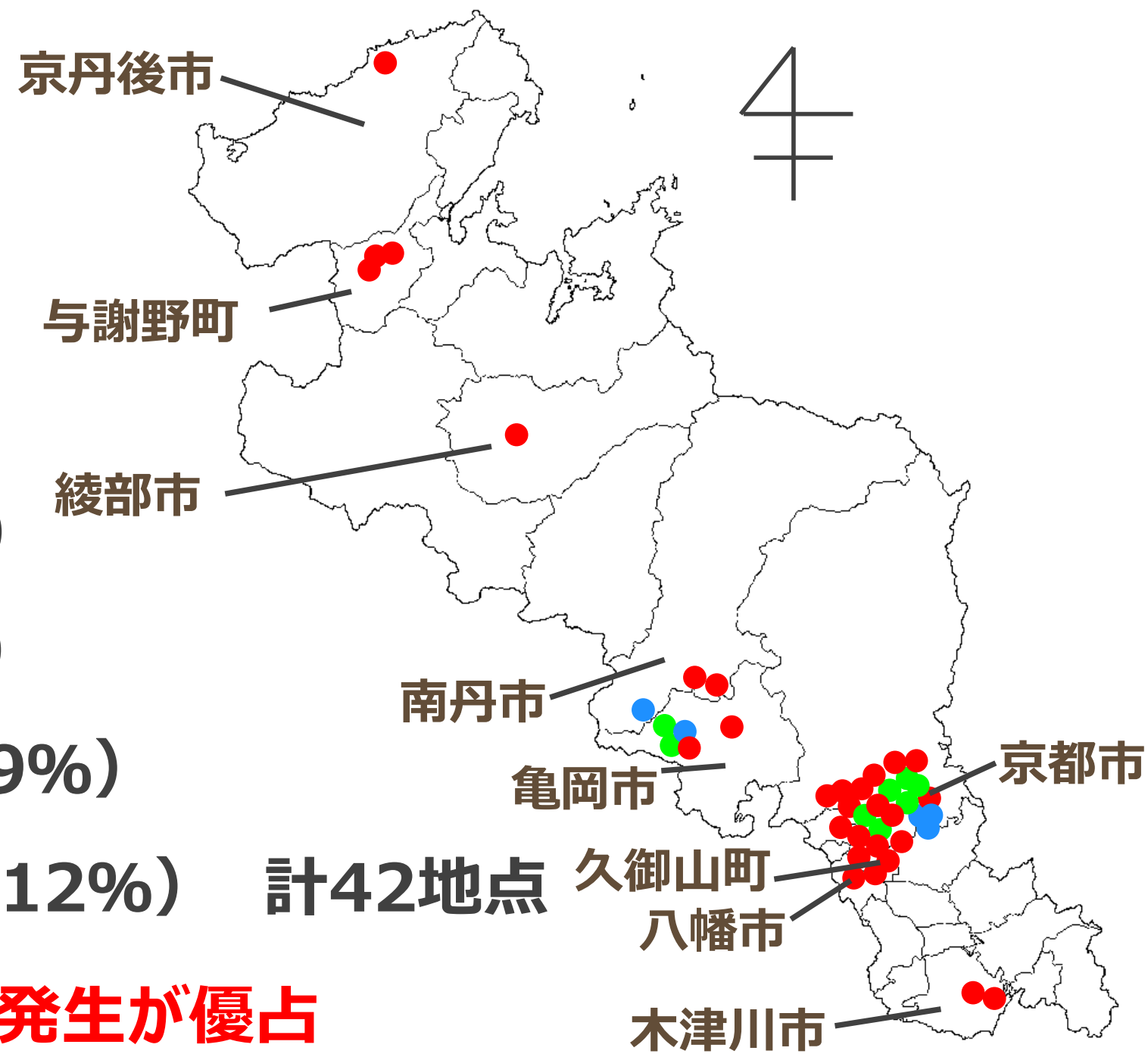
- 府内ネギ栽培におけるバイオタイプB（以下B）の地理的分布を明らかにしました。
- Bの発育所要日数を明らかにしました。
- Bに対して効果の高い薬剤を明らかにしました。
- 寄生バチの種構成を明らかにしました。

## 主な成果

- 京都府内ではBの発生が優占  
(2018~2021年調査)

2020年(例)

- Aのみ
- Bのみ
- AおよびB混在



- A: 13地点 (30%)
  - B: 34地点 (81%)
  - Bのみ: 29地点 (69%)
  - AおよびB: 5地点 (12%) 計42地点
- ⇒府内全域でBの発生が優占

- Bの幼虫および成虫に効果のある剤  
⇒バイオタイプA(以下A)とは異なる

IRAC コード	薬剤名	希釈 倍数	B		A(参考)	
			幼虫	成虫	幼虫	成虫
3A	アグロスリン乳剤	2000	◎	○	×	○
4A	ダントツ水溶剤	2000	△	×	○	×
5	ディアナSC	2500	×	△	-	-
5	スピエース顆粒水和剤	2500	×	△	×	○
6	アグリメック	500	△	×	-	-
14	リーガード顆粒水和剤	1500	○	△	◎	×
28	ベネビアOD	2000	○	×	-	-
30	グレースシア乳剤	2000	△	○	-	-

※ ◎:補正死虫率が90%以上、○:89~70%、  
△:69~50%、×:49%以下、-:調査なし

幼虫:アグロスリン乳剤、リーガード顆粒水和剤、ベネビアOD

成虫:アグロスリン乳剤、グレースシア乳剤

- 18~30°Cにおける発育所要日数  
⇒BはAより短い

表1 ネギハモグリバエ両バイオタイプの卵から成虫までの発育所要日数(15L9D)

	温度					
	15	18	20	25	30	35
バイオタイプB	68.3±1.2	41.8±1.8 a	32.1±0.1 a	22.8±0.8 a	16.6±1.1 a	ふ化せず
バイオタイプA (徳丸, 2016)	68.3±5.5	46.0±1.2 b	35.7±2.0 b	23.3±1.2 b	19.4±0.9 b	?

平均値±標準偏差

※同一温度の異なる文字間で有意差あり(Mann-WhitneyのU検定, P<0.01)。

Bの発育零点は10.0°C, 有効積算温度は333.3日

18~30°Cまでの産卵から羽化までの発育所要日数

...Aと比べて短くなった

- 寄生バチは2科7種



*Halticoptera circulus*



カトウヒメコバチ

2020年および2021年...Aの結果と異なる種構成率

*H. circulus* が最も高く(2020年:80.5%, 2021年:70.3%),  
次いでカトウヒメコバチ(2020年:17.6%, 2021年:25.6%)

寄生率...2020年:80.5%, 2021年:70.3%

期待される ● Bの発生生態や薬剤殺虫効果を明らかにし、防除対策の提案を可能にしました。

## 波及効果

- 土着捕食寄生バチを保護活用した、持続的な防除技術を開発することが期待できます。